

# UCS のための Will Boot 設定確認

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[シナリオ：設定確認](#)

[全体的なステータスの確認](#)

[障害詳細の確認](#)

[POST の結果の表示](#)

[確認](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、UCS Will Boot 機能の使用方法および設定ステータスの確認を迅速に実行するコマンドの使用方法を説明します。

UCS Will Boot 機能を使用すると、ユーザは BIOS の処理を続行できるようにブレードが適切に設定されているかどうかの最低限の確認を、迅速に実行できます。Will Boot 設定確認では、CPU と DIMM の両方の設定が確認されます。この確認は、ユーザがブートの問題を短期間でデバッグするために有用です。

Cisco UCS には、Will Boot 設定確認を支援する複数のツールが用意されています。これには、次のツールが含まれます。コマンドラインの `show status` コマンドと `show post` コマンド、および UCS Manager GUI の [Overall Status]、[Faults]、および [View POST Results] です。

## 前提条件

### 要件

シスコでは次を推奨しています。

- Cisco UCS サーバ ブレードのソフトウェアとハードウェアに関する実務知識があること。
- Cisco UCS のコンポーネントとトポロジに精通していること。
- Cisco UCS Manager アプリケーションに精通していること。

### [使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、Cisco Unified Computing System ( UCS ) に基づくものです。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細については、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 設定

UCS Will Boot 機能を使用すると、CPU と DIMM の設定を確認できます。このセクションでは、CPU および DIMM の必須の設定について説明しています。

### 実行に必要な CPU 設定

- B200/B250 : 最小番号スロットの CPU が存在すること。
- B440 : カードを動作させるには、プロセッサ ソケット CPU1 または CPU2 ( 番号の小さい 2 個 ) を取り付ける必要があります。CPU1 または CPU2 が取り付けられて動作する場合は、他の任意の組み合わせが動作します。注 : 現時点では、シスコは2または4つのCPU構成のみをサポートしています。
- CPU が一致している必要はありません。

### 実行に必要な DIMM 設定

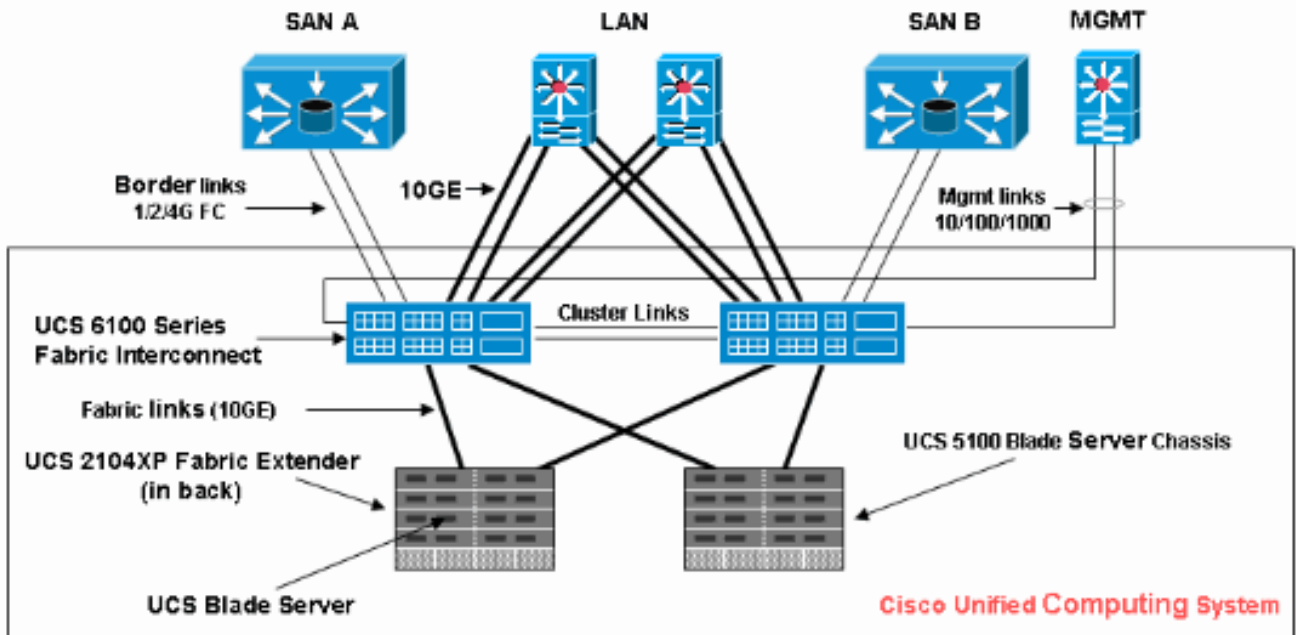
- B200/B250 : A0、B0、または C0 に DIMM を取り付ける必要があります。
- B440:CPU1またはCPU2で一致するDIMMペアが1つ。現在のCPUを使用するチャンネルの最小バンクのDIMMを装着する必要があります。
- DIMM を一致させる必要ありません。たとえば、CPU をまたがって DIMM のサイズを一様にする必要はありません。

### 設定検査の実行方法

- 全体的なステータス
- 障害
- PowerOn Self-Test ( POST ) の結果の表示

## ネットワーク図

Cisco Unified Computing System ( UCS ) で使用される一般的なトポロジは次のようになります。



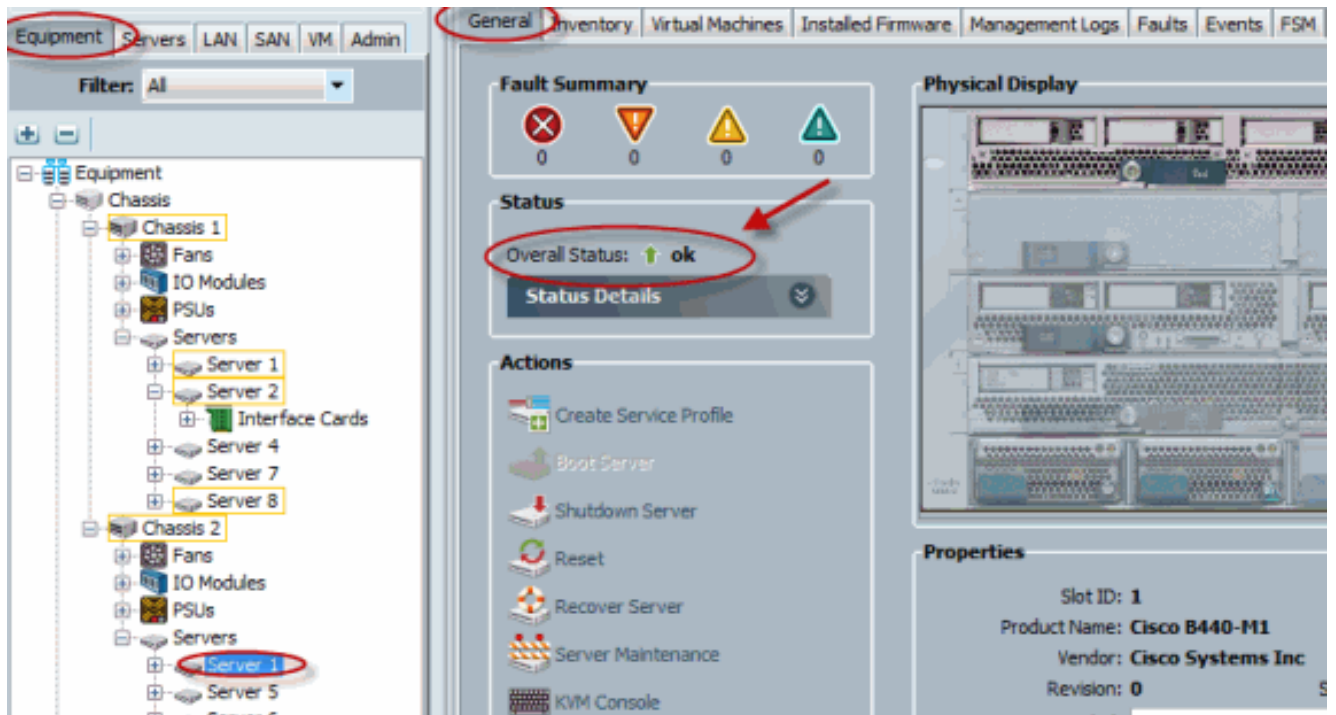
## シナリオ：設定確認

まず、[Overall Status] を確認し、次に [Faults] および [POST Results] を確認します。

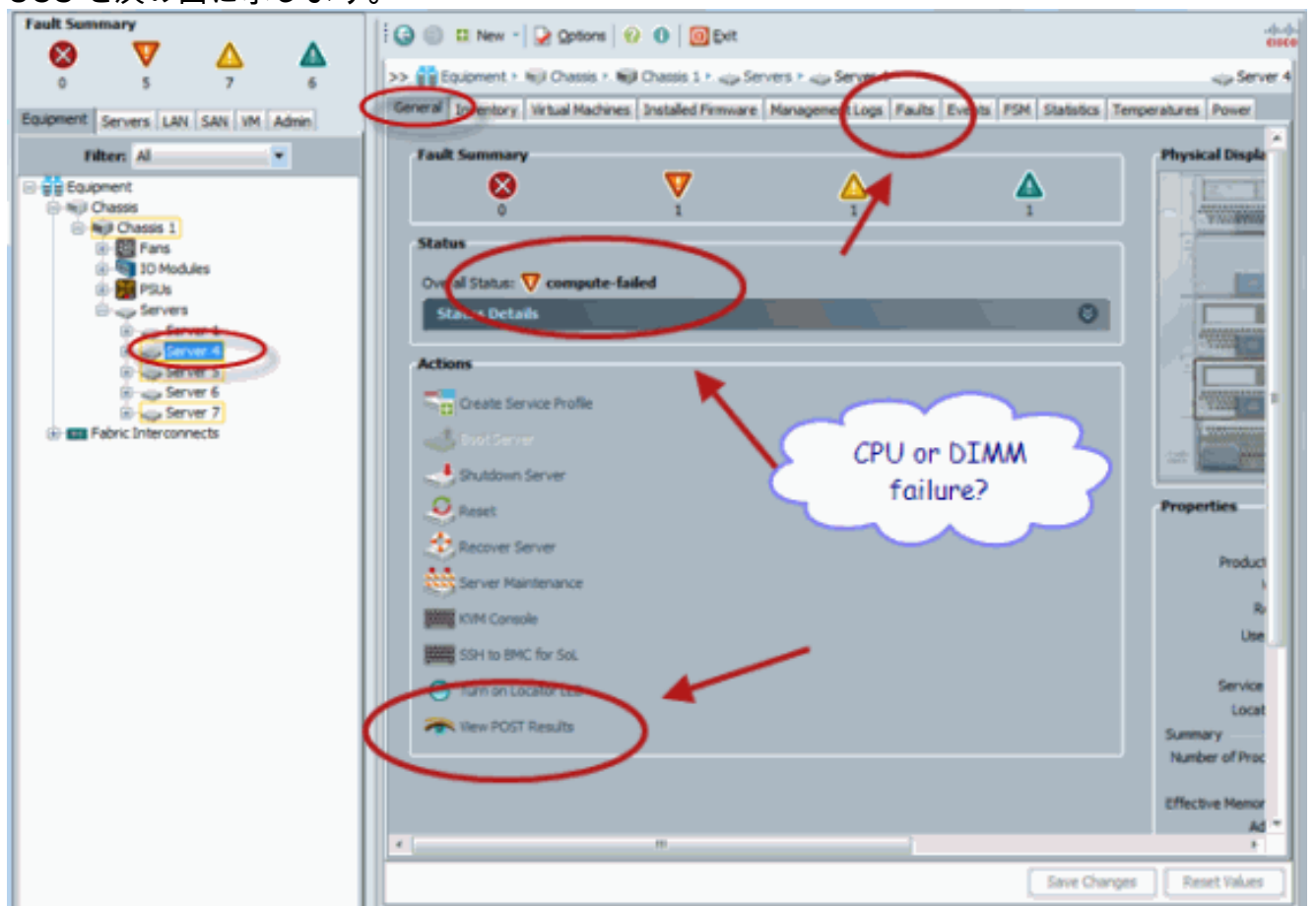
## 全体的なステータスの確認

まず確認するのは、全体的なステータスです。Cisco UCS のこの機能によって、ユーザは、サーバの全体的なステータスを迅速に確認できます。このセクションでは、全体的なステータスを表示する方法および UCS で CPU または DIMM の障害を検出した場合の表示内容を説明します。次のステップを実行します。

1. Cisco UCS Managerにログインします。
2. ナビゲーション ペインで **Equipment** タブを選択します。
3. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] を選択し、全体的なステータスを確認するサーバを選択します。
4. 右側の作業ペインで [General] タブを選択します。[Overall Status:] が表示されます ( [Status] の下 )。
5. 通常の状態では、[Overall Status] に [ok] と表示されます。



6. ブレードが適切に設定されておらず、UCS で CPU または DIMM の障害を検出した場合は、[compute-failed] と表示されます。全体的なステータスが compute-failed となっている UCS を次の図に示します。



7. 全体的なステータスは、**show status** コマンドを発行して確認することもできます。

```

UCS-A# scope server 1/4
UCS-A /chassis/server # show status
Server slot status
-----
1/4 Equipped Availability overall Status Discovery
Unavailable compute-failed Complete

```

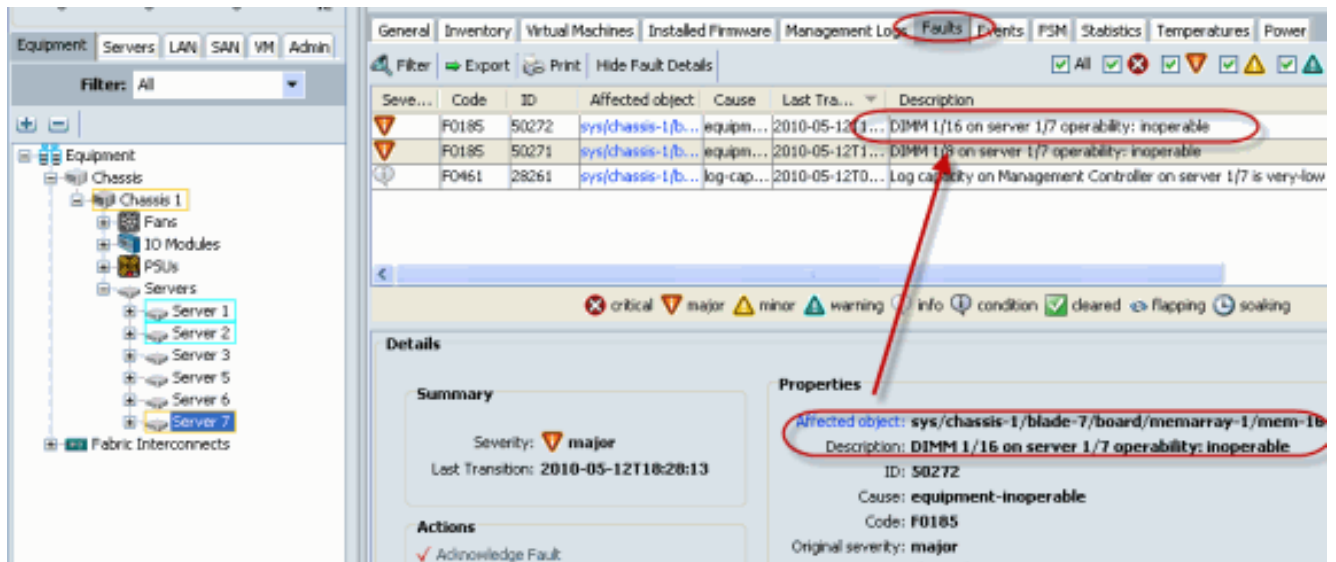
## 障害詳細の確認

サーバブレードのステータス詳細を表示できます。このセクションでは、ステータス詳細および障害の説明を表示する方法を説明します。UCS で一部の CPU または DIMM が動作しないことを検出した場合は、[Overall Status] に [Degraded] と表示されます。全体的なステータスが低下したブレードを表示している UCS Manager を次に示します。次のステップを実行します。

1. Cisco UCS Managerにログインします。
2. ナビゲーション ペインで **Equipment** タブを選択します。
3. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] を選択し、全体的なステータスを確認するサーバを選択します。
4. 右側の作業ペインで [General] を選択します。[Status] の下で、全体的なステータスを確認します。
5. ステータス詳細を確認するために、[Status Details] 表示ウィンドウを選択します。

The screenshot shows the Cisco UCS Manager interface. On the left, the navigation tree shows 'Equipment' > 'Chassis' > 'Server 2' selected. The main panel shows the 'General' tab for the selected server. The 'Fault Summary' shows 0 critical, 2 warning, 0 minor, and 0 informational faults. The 'Status' section shows 'Overall Status: degraded'. A 'Status Details' window is open, showing a 'Configuration Error: memory-inoperable' with the following details: Admin State: in-service, Discovery State: complete, Avail State: available, Assoc State: none, Power State: on, Slot Status: equipped, and Check Point: discovered. The 'Physical Display' on the right shows a rack of server blades.

6. 障害の説明および詳細を表示するには [Faults] タブをクリックします。



7. 詳細ステータスは、**show status details** コマンドを使用して表示することもできます。

```
UCS-B# scope server 1/7
UCS-B /chassis/server # show status
server slot status
```

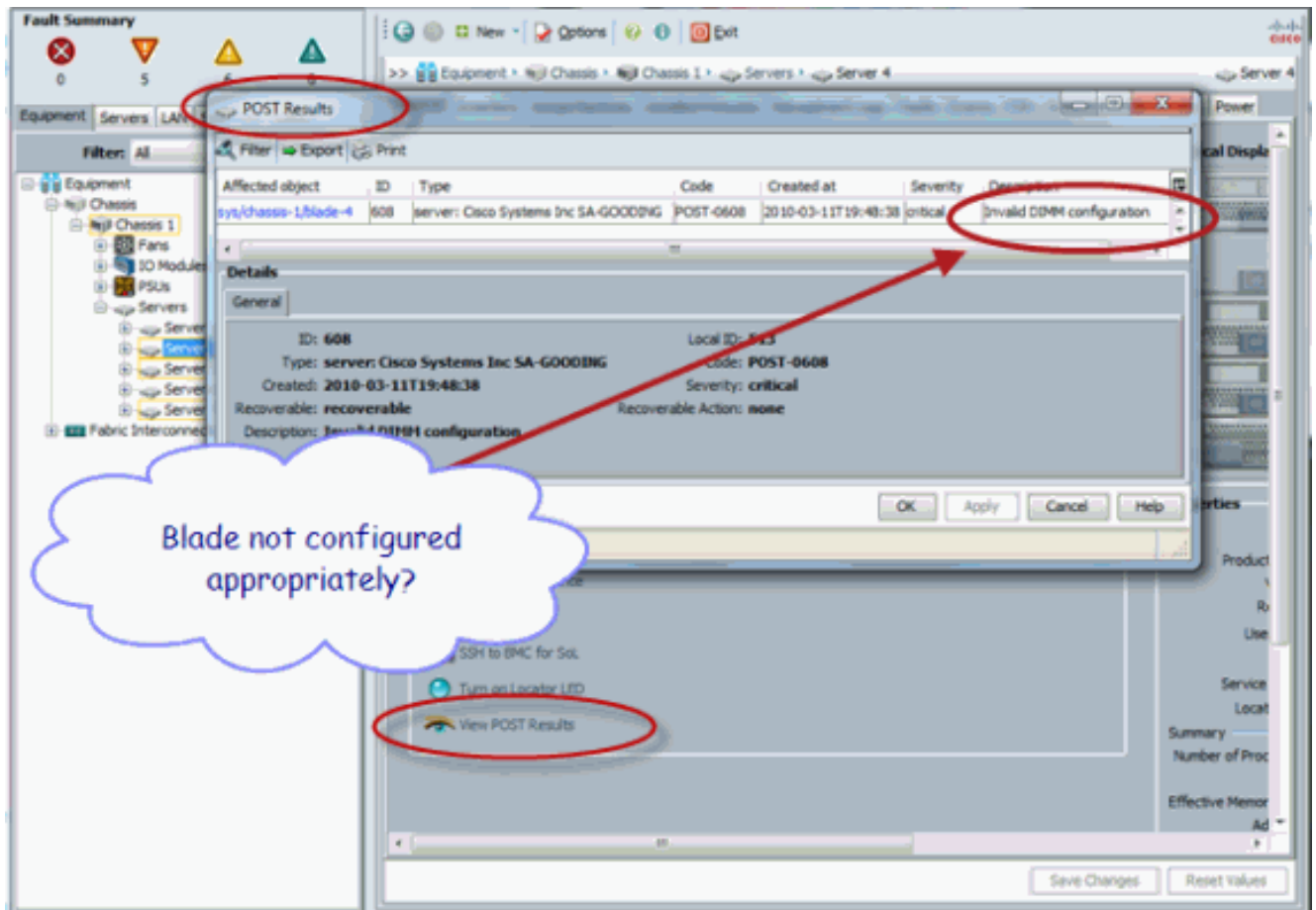
server	slot	status	Availability	Overall status	Discovery
1/7	Equipped		Available	Degraded	Complete

```
UCS-B /chassis/server # show status detail
Server 1/7:
slot status: Equipped
Conn Path: A,B
Conn Status: A,B
Managing Instance: B
Availability: Available
Admin State: In Service
Overall status: Degraded
Oper Qualifier: Memory Inoperable
Discovery: Complete
Current Task:
```

## POST の結果の表示

サーバブレードに対する Power On Self-Test プロセスで収集された任意のエラーを表示できます。このセクションでは、POST の結果の表示方法について説明します。次のステップを実行します。

1. ナビゲーション ペインで **Equipment** タブをクリックします。
2. [Equipment] タブで、[Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に選択します。
3. POST の結果を表示するサーバを選択します。
4. 作業ペインで **General** タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。[POST Results] ダイアログボックスに、サーバブレードの POST の結果が一覧表示されます。



6. [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。
7. POSTの結果は、`show post` コマンドを使用する場合も表示できます。

```
UCS-A# scope server 1/4
UCS-A /chassis/server # show post
```

Global ID	Code	Severity	Affected object	Description
608	Post 0608	Info	sys/chassis-1/blade-4	Invalid DIMM Configuration

## 確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

## 関連情報

- [Cisco UCS Manager アーキテクチャ](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)